

## 第2期第11回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2015年2月21日（土）10:00～12:00

〔場 所〕町田市生涯学習センター 6階学習室2

〔出席者〕※敬称略

委 員：石川清（会長）、小川久江（副会長）、岩本陽児、佐合昭浩、  
富川尚子、西原要四郎、布沢保孝、二見秀太郎、柳沼恵一、吉川雅子  
以上 10名

事務局：稲田センター長、外川担当課長、松田事業係長、  
村田担当係長、齋藤担当係長、小林主任、中村主事（記録）

〔欠席者〕太田美帆、押村宙枝、菅谷万里子、辰巳厚子、花田英樹

〔傍聴人〕1人

〔資 料〕・第11回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2015年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート（案） 資料1
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 資料2～資料26
- ・2014年度生涯学習センター運営協議会 事前提出意見
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 報告1～報告5
- ・東京都公民館連絡協議会定期総会について（資料27）
- ・東京都公民館連絡協議会委員会第3回研修会について
- ・2015年度生涯学習センター運営協議会 日程（案）
- ・まちだ市民大学HATSプログラム委員選任要項

### ＜次年度の事業評価シートについて＞

事務局：前のご意見をいただいたシート左下の部分について、「前年・前回との違い・改善点」の欄に、新規事業の場合、「実施上の留意点」を記載することとし、「運営協議会意見」については前回実施時と企画提出時の欄をまとめた。2015年度からはこのシートを運用し、その都度は難しいが、問題点があれば徐々に改善していきたい。次回の会議で、評価シートの最終確認と、市民大学について検討するにあたってのスケジュールについて協議する。また、市民大学についてはこれまでの歴史等の資料を提出するので、4月以降の参考にしていただきたい。

（意見・質問）

委 員：新規事業なのか継続事業なのか、ひと目でわかる欄があると良い。

事務局：そのようにする。

### ＜協議事項＞

1、2014年度生涯学習センター事業の企画について

（1）トークイベント「憧れのギョーカイ人に聞いてみよう」

（2）7年のOL生活を経て人気書道家に！矢部澄翔の「好き！を仕事にする方法」

事務局：若者を対象とした事業で、前回のファッションを題材にした若者向け講座に対し、今回は「仕事」をキーワードに、2つの講座を企画した。この2つの講座は2部構成のような形式で同日、同じ会場で行い、続けての参加でも、どちらかのみ参加でも可能としている。

トークイベントでは若手の社会人の方に、仕事の内容や裏側などをお話いただき、質問や意見交換の時間を設け、仕事に対するイメージを持っていただく。

また、「好き！を仕事にする方法」では、書道家として世界各国で活躍されている矢部澄翔氏に講演いただく。転職し、現在の職につくまでのご自身の経験談や、夢を持って働くことについてお話をいただき、若者が将来や働くことについて考えるきっかけとしたい。事前にご意見をいただいたとおり、2つの講座を続けて行うと長時間になってしまうため、退屈を感じさせないためにも時間配分を調整し、簡単なワークも取り入れながら進めていきたいと考えている。

(1)、(2)についての意見・質問)

会長：10代、20代対象とのことだが、その他の年代の方から申込があった場合はどのように対応するのか。

事務局：講座の趣旨を伝えたくて、それでも参加を希望されるのであれば受け入れる。

委員：(1)について、パネルディスカッションというわけではないのか。

事務局：あまり形式的なものは考えていないが、パネルディスカッションのような形式で、職員がコーディネーターとなり、進行することを想定している。

会長：数少ない若者対象事業ということで、この期に若者のニーズを拾い起こしたい。アンケート等積極的にお願する。また、(2)について、パフォーマンスは行うのか。

事務局：パフォーマンスは行わないが、字を書く簡単なワークショップを予定している。

委員：(1)について、若者の社会人とは何歳くらいか。

事務局：20代から30代の方にお話いただく。

委員：業界の裏側や深さについては中堅社員の方が経験しているのではないか。

事務局：参加者が気軽に質問できるよう、今回は若者の社会人来ていただくこととした。

委員：(1)について、お話いただく方は町田に馴染みのある方なのか。

事務局：基本的にはこれまで生涯学習センターと関わりのあった方に依頼しており、ファッション業界からは109MACHIDAの方にお話いただく。

委員：(2)について、矢部澄翔氏に一筆書いていただき、生涯学習センター内に飾ってはどうか。

事務局：何かお願いしたいとは考えている。

(3)生涯学習総務課共催 古民家見学会「甦る古民家～旧荻野家住宅改修を見る～」

事務局：生涯学習総務課文化財係、自由民権資料館との共催事業で、以前は三輪にあり、現在は薬師池公園内に移築されている旧荻野家の、耐震化工事を含めた改修工事を行うにあたり、この貴重な機会に見学会を行う。今回は屋根の萱下ろしの様子をご覧ください。以前永井家の見学を企画した際、申込が殺到したため、今回も同様の想定をし、イベントダイヤルの申込で、申込多数の場合は抽選とする。場合によっては、同日に追加で見学会を行うことも考えている。事前にいただいたご意見の中で、自由民権資料館との関連がよくわからないということだったが、旧荻野家の近場に自由民権資料館があり、説明会場として使用するため、文化財保護審議会委員である大野氏にご紹介いただく。

(意見・質問)

委員：下ろした萱はどこかへ寄付するのか。

事務局：確認する。

(4)2015年度ことぶき大学 前期コース一覧

事務局：2015年度ことぶき大学、市民大学について、1枚のシートでまとめて提案させていただく。詳細不確定な部分もあるが、概ねこのシートのとおり進めていきたい。ことぶき大学のプログラムは誰が決めているのかというご質問を事前にいただいたが、事業担当の職員で検討し、決めている。プログラムの内容については、主に前年のアンケート及び事業評価シートを参考にしている。2014年度に引き続き美術コースを決定したのは、非常に評判が良かったためである。「楽しく学んで豊かに生きる」をコンセプトに、高齢期の方の生活を元気にしながら学んでいただくため、企画した。

(5)2015年度市民大学HATS 通年・前期プログラム一覧

事務局：プログラム委員によるプログラム会議で協議し、内容を決定した。お手元にお配りした「まち

だ市民大学HATSプログラム委員選任要項」第2項で、「委員は、委員と職員からなるプログラム会議に出席し、町田市生涯学習センター条例施行規則第2条第1項第2号に規定するプログラムの開発に関し、必要な助言、または提言を行う。」と規定している。最終的に教育委員会が決定しており、HATS運営協議会が2011年度をもってなくなったため、市民大学の実施については、生涯学習センター運営協議会で、市民大学の全体像も含め、4月以降議論いただきたい。

((4)、(5)についての意見・質問)

委員：ことぶき大学の健康コース、美術コースは評判がよかったため、2015年度も同じ内容にしたとのことだが。文学コースは評判が良かったにも関わらず2015年度は実施しないのか。

事務局：文学コースで取り上げた遠野物語は内容が難しく、できれば複数年かけて継続して行いたい内容である。しかしことぶき大学は、より多くの方に受講していただくため、単年度で終了することを前提としている。そのため継続性がなく、ことぶき大学の講座としては不向きと判断したため、2015年度は実施しないこととした。

委員：健康コースについて、気功だけでなく様々な健康法があるので、評判が良かったとしても違う内容にしても良かったのではないかと。

事務局：次回以降は新しい内容も取り入れるよう検討する。

## 2、事業評価について

### (1) 新春クラシックコンサート

事務局：「なじみのある曲が多かったため、身近に感じることができた」という感想を多くいただいた。一方で、イベントダイヤルの申込順を入場順としたことで、申込開始直後に電話が殺到し、なかなか繋がらないという事態となってしまった。今後改善策を検討していきたい。

(意見・質問)

委員：当日欠席者が多いため、希望者がいれば追加で受け入れることも検討していただきたい。

事務局：当日の欠席者の状況を見て、開始直前に希望者がいれば受け入れている。

### (2) 市民企画講座「健康応援！詩吟体験講座」

事務局：受講者が積極的に参加し、最終回ではホールで発表を行った。初回の講座が台風により中止となり、年末年始を跨いだ開催日程となってしまった結果、受講率がのびなかった。

### (3) 市民企画講座「男も女もともに生きやすい社会をめざして」

事務局：「人権」というカテゴリで男女平等社会をテーマにした講座で、幅広い層に参加していただけるよう企画、検討し、男性も興味を持てるような内容になるよう工夫した。その結果、子育て世代の夫婦等、様々な世代に参加いただいた。

(意見・質問)

会長：男性の参加率はどれくらいか。

事務局：男性4割、女性6割であった。

委員：第4回目に「男も仕事を辞めて親の介護」とあるが、実際にそのようなことが増えているというお話があったのか。

事務局：講師の方が男性介護者の会に所属されているため、実体験を交えたお話をいただいた。

委員：この講座を受講したが、実際に男性介護者が各地で増えており、様々な場で交流を持ちつつあるということだった。前回の企画と比べ、男性の参加者も増え、幅広い世代が参加されていた点は非常に評価できるので、今後も継続していただきたい。また、保育付きとしたことで、子育て世代にも参加頂けたことで、幅広い世代の参加に繋がったと考えられる。

副会長：(2)について、受講者の平均年齢はどれくらいか。

事務局：高齢者が大半であった。

(4) ことぶき大学 文学コース

(5) ことぶき大学 歴史コース

- (6) ことぶき大学 美術コース
- (7) ことぶき大学 日本の伝統コース
- (8) ことぶき大学 健康コース前期
- (9) ことぶき大学 健康コース後期
- (10) ことぶき大学 音楽コース
- (11) ことぶき大学 暮らしコース

事務局：先ほども議論になったが、ことぶき大学の内容については前年の結果を基に検討し、決定している。2014年度については、2013年度の結果を踏まえ、7コースを実施した。

((4)～(11))についての意見・質問)

委員：ことぶき大学については、プログラム委員はいないのか。

事務局：今のところはない。ことぶき大学は2013年度に大幅にプログラムを変えた。2012年度まではシルバー人材センターの協力を得ながら、折り紙等、少人数で仲間づくりをしていくような内容だったものを、2013年度からはホールを利用し、大人数で講座を行っていくようなものにしている。

委員：評判の良かったコースを継続することも良いと思うが、ことぶき大学として、コンセプトを決めて毎年必ず実施するコースがあっても良いのではないか。

事務局：2014年度は「文学」「歴史」「美術」が3つの大きな柱となり、その他に、高齢者の生活に大きく関わる「暮らし」コースを実施した。次年度以降もことぶき大学の基礎となる内容を検討し、実施していきたい。

委員：月に1回程度の間隔で実施していたようだが、もう少し間隔を縮めても良いのではないか。

事務局：アンケートからも、月に1度は間隔が長すぎるとのご意見もいただいている。検討課題とは感じているが、予算の問題もあり、2015年度は現状のままとした。内容を大幅に変更してから3年目となる2015年度を終えたところで、対応策を検討していきたい。

会長：間隔が短いと参加できない方も、月に1度だからこそ、高い受講率を維持しているのではないか。

委員：その可能性もあるが、短期間のコースにすれば、その分、別のコースを増やせるのではないか。

事務局：予算上、コースを増やすのは難しい。

委員：(9)について、実施目的に「高齢社会対策区市町村包括補助事業である」とあるが、これはどのような事業か。

事務局：東京都から出ている補助金で、高齢社会対策に関する事業についての予算を市で一括して申請し、その半額の補助を受けられるもので、ことぶき大学全てが対象となっている。

委員：ことぶき大学はどのくらいの歴史があるのか。

事務局：1966年から実施しており、当初は老人学級、高齢者学級という名称であった。

委員：ことぶき大学の対象年齢について、60歳以上という制限を設けなくても良いのではないか。

事務局：社会教育の中で、高齢者の人権について考えるものとして、公民館での高齢者事業が始まった。自らの生活を再評価する「自分史」などにも取り組み、社会教育の大きな柱のひとつとなった。

委員：高齢者対策事業は他課でも行っていると思うので、生涯学習センターでは生きがいを持って楽しく学ぶという目的で行えば、高齢者に限定する必要はないと考えている。

事務局：ことぶき大学の予算について、東京都の包括補助金の項目の中で、60歳以上の「生きがいづくり」として補助を受けているため、年齢制限をなくすことは難しい。

委員：事業内容の評価の理由について、全コース同じ文章になっているが、個別のコースについての評価ではないのか。

事務局：事業内容については事業の妥当性、必要性の項目があることから、ことぶき大学事業として全コース共通性があるため、評価を統一した。事業プロセス、事業成果については個別のコースに対する評価としている。

- (12) まちだ市民大学HATS 陶芸入門講座
- (13) まちだ市民大学HATS 電動ロクロ体験講座
- (14) まちだ市民大学HATS 多摩丘陵の自然入門講座

- (15) まちだ市民大学HATS まちだの福祉
- (16) まちだ市民大学HATS まちだ市民国際学
- (17) まちだ市民大学HATS “こころ”と”からだ”の健康学
- (18) まちだ市民大学HATS まちだdeエコライフ
- (19) まちだ市民大学HATS 現代の人間関係学を再生する
- (20) まちだ市民大学HATS 町田の郷土史Ⅱ

事務局：事前にいただいたご意見で、陶芸講座について、カルチャーセンターとの差別化が課題というご意見をいただいたが、市民大学の陶芸入門講座は、初めて陶芸を体験したい方を対象としており、きっかけとしてはカルチャーセンターとの違いはあまりない。ただし、内容としては「リサイクル」をテーマのひとつとし、特色を出している。市民大学として、芸術分野でどのような分野に取り組んでいくのか、今後ご議論いただきたい。

また、まちだの福祉について、的をある程度絞り込まないと全体像がぼやけて見えないというご意見をいただいたが、以前は高齢者施設や障がい者施設の実習を行っていたところを、地域福祉について考えるため、2013年度から内容を大きく変更し、座学中心の形式にした。前期で福祉の概要、後期で地域実践について学び、枠付けをはっきりさせた。2015年度の内容については、社会福祉協議会の方に、プログラム会議に出席いただきご意見をいただいた。

“こころ”と“からだ”の健康学については、2013年度までは受講者の年齢が高く、ことぶき大学との差別化を図るため、2014年度は60歳未満を対象としたところ、応募数が少なかった。内容についての評価は高かったので、2015年度は工夫をし、前期にこころの問題、後期はからだの問題を中心にプログラムを組んでいる。

現代人間関係学について、まちだの福祉と内容が似ているというご意見をいただいたが、確かに人間関係と地域福祉は密接な関係にある。完全にすみわけをするよりも、係る部分が多少あったほうが良いのではないかと考えている。参加者が少なかったことについては今後の課題と捉えている。人間関係学講座はグループワークを中心としており、募集定員についても改めて検討したい。

((12)～(20)についての意見・質問)

- 委員：(12)について、1人あたりの費用が高額な印象があるが、事業コストは例年これくらいか。
- 事務局：陶芸入門講座については資料代を15,000円徴収しており、それも含め、コストを算出しているため1人あたり1,890円となっている。なお、電動ロクロ体験講座は、入門講座よりも講師が1人多く、受講者が少数だったこともあり、割高となっている。
- 委員：(14)について、非常に良い講座とは思いますが応募者数が少ないのが残念である。13回と回数が多いが、全回参加が前提で募集をしたのか。
- 事務局：全回分の資料代をいただくので、全回参加を前提に募集を行った。
- 委員：13回全て参加が難しい方は申込をされなかったと考えられるため、応募者数が伸びなかったのではないかと。前年はどのくらいの応募者数だったのか。
- 事務局：2011年頃から、市民大学の受講者数は減少している。定員に達しなかったこともあったものの、追加募集で補っていた。現在は若干だが定員を超えた応募があり、少しずつ改善されている。
- 委員：(15)について、福祉については、まちづくりの問題も大きく関係している。街をよりよい景観にするためのボランティア活動が現在行われていると思うが、景観も含めた人間関係に関するような講座は行わないのか。
- 事務局：人間関係学講座において、景観を含めた人間関係をテーマに設定することは可能である。町田市では、市民協働推進課の地区協議会で、地域の問題は地域で掘り起こし、解決していくような動きがあり、その辺りにも着目して進めていければと考えている。
- 委員：地区協議会や町内会と連携し、福祉の講座をもう一歩地域へ引き込んでいただきたい。
- 委員：事業プロセスの評価の理由に「②について、後期は定員割れをした」とあるが、応募者数は定員を超えている。どのような意味か。
- 事務局：応募者数に誤りがあった。募集定員より少なかったため、確認し、訂正させていただく。正しくは26名であった。

委員：フィールドワークは取り入れたのか。

事務局：今回車椅子体験は屋外には出ず、室内で行ったが、地域で活動されている方達に参加いただき、お話しいただいた。

委員：座学と実践で分けるのもひとつの考え方とは思うが、市民大学の本来の目的は、まちづくりの担い手を育てることだと理解している。その点を考えると、福祉の講座は市民大学の中でも中心となるべき講座であると考え。ただし、福祉といっても範囲が非常に広いので、何に対する担い手を育てるのか、もう少し絞り込んでテーマごとに学んでいくのが良いのではないか。

事務局：2012年度までのように、施設実習を行うと明確な動きが見える。2015年度のプログラムを決める上で、男性が地域の中でどのような活躍ができるか、という検討もしている。まだご自身が元気で、社会に貢献できる立場の方のネットワークをどのように広げていけるかが課題と考えている。

委員：働き手になる方を集め、繋いでいけるような講座を、是非実現していただきたい。

委員：(17)の内容について、個別に見ると非常に良いと思うが、全7回の統一性がなく、コンセプトが見えづらい。受講者が少なかった原因のひとつではないか。2015年度のプログラムを見ると、やはり統一性がなく、応募者が伸びない恐れがあるのではないか。

事務局：受講者数については、60歳未満に限定したことが大きな原因であったと考えている。「60歳までに身に付けておきたい」とタイトルにもあるように、どちらかというところの問題に特化していたことがコンセプトともいえる。2015年度の前期講座については、60歳未満という制限をなくし、どちらかというところの問題をテーマに進めていく。

副会長：65歳未満対象にする等、年齢を上げれば制限を設定しても良いのではないか。

事務局：健康というテーマは、年齢ごとに集中してプログラムを組む必要があり、大雑把に年齢を広げてしまうと内容がぼやけてしまうため、プログラムを組む難しさは感じている。委員の皆さんのご意見も伺いながら、プログラム委員と調整し、検討していきたい。

委員：年齢制限を設ける以前は応募が大変多かったため、年齢制限を設けたところ、60歳以上の方はことぶき大学の健康コースへ集中し、応募が殺到したことから、また制限をなくしてしまうと以前と変わらなくなってしまう恐れがある。

委員：受講率57%にもかかわらず、分析・課題に「出席率が最後まで落ち込むこともなくバランスよく出席していた」という記述に違和感がある。受講者数を定員で除して受講率を算出していると思うが、定員よりも受講者数が少ない場合、算出方法を変えたほうが良いのではないか。実際に受講された方がどれだけ出席したかを考えたほうが良いかと思われる。

事務局：受講者に対する評価か、募集に対する評価か、2種類の捉え方があるが、それを一緒くたにしてしまっているため、このような算出方法になっている。2015年度に新しい評価シートを運用するにあたって、その点も含め検討したい。

委員：(18)について、前年の評価がD(縮小)で、今回もあまり良いとはいえない。必要な講座であるとは思うが、まだ一工夫する必要があるのではないか。

事務局：環境の問題についても、どのように実践できる人が育っていけるかが大きな課題になっている。

会長：公民館と一緒にする前の市民大学でも同様の問題はあった。当時は、たとえ応募者が少なかったとしても、企画として必要であれば継続していくということになっていた。2015年度、市民大学について議論を進めるにあたり、改めて見直す検討事項としたい。

委員：タイトルに「エコ」とあるが、今日エコという言葉は当たり前になっており、日常的に取り組んでいる人も多い。しかし講座の内容を見ると、違う視点で考えさせられるものも多いので、タイトルにもう一工夫できれば応募者も増えるのではないか。

事務局：環境講座の実施を始めた当初は「環境講座」というタイトルだったものを、工夫を重ね、「エコライフ」や「エコツアー」に変更した。しかし、著しい効果はみられないため、更に検討の必要がある。福祉と環境講座については、人材育成の目的が大きい。人材育成に特化したプログラムのため、志の高い方でないと参加しないため、申込者が少ないことに繋がっていると考えられる。例えばお子さんと一緒に参加していただく等、市民大学としての特性の範囲を超えないよう、工夫を重ねていきたい。

委員：市民大学の環境講座と自然講座の修了生で成り立つみどりのHATSがあるが、今回の環境講

座の受講者から5人、自然講座から2人が加入した。2013年度は加入者がいなかったが、継続して行わないと次の活動へ繋がらないので、受講者が少なかったとしても廃止はせず、実施を続けるべきである。

委員：(19)について、人間関係学と福祉の講座を掛け合わせ、もう少し違った視点の講座ができれば良いと感じた。

事務局：市民大学の全体の構成として、個々の講座で考えるのか、全ての講座で考えるのか等のあり方についても、今後議論いただきたい。

#### <報告事項>

##### 1、事業評価の最終報告

事務局：報告1～5まで、資料のとおり報告する。

##### 2、センター長報告

平成27年第1回町田市議会定例会が、2月26日から3月27日まで行われる。3月補正予算が2月26日に付託され、審議される。新年度予算については本会議で付託、3月27日表決の予定である。

東京都公民館連絡協議会で、「教育委員会制度の規制と公民館」という研修が、3月26日に西東京市で行われる。是非ご参加いただきたい。

町田市では2008年度から2013年度まで計3回、事業仕分けを実施している。2015年度は名称を「町田市民参加型事業レビュー」に改め、対象事業12事業のうちの1つとして、生涯学習センターの「生涯学習講座事業」が選ばれた。実施は5月頃の予定である。

2月22日に、障がい者青年学級ひかり学級の成果発表会が行われる。28日は土曜学級、3月1日は公民館学級の成果発表も行うので、お時間のある方は是非足を運んでいただきたい。

##### 3、東京都公民館連絡協議会について

委員：東京都公民館連絡協議会第3回研修会について、テーマは「公民館の活性化～若者と地域の居場所づくり～」として、講師の萩原氏にお話いただいた。現在、若者の社会参加がしづらくなっており、公民館は中間的な就労支援役になり得るということだった。ひきこもりやニートの問題については精神福祉保健所の所管になっているものの、受け入れる現実が社会にはない。また、若者が元気になっても間口の広い楽しみ合える場がないため、公民館が地域と自宅との間の間口の広い場所になるべきということだった。若者の居場所がない理由として、都市空間と大人の視線等、本来子どもがいるべき子ども世界（生命感覚の充実）ではなく、大人世界（成果主義と所有）に入り込んでしまっていることが考えられる。若者にとって居場所が生まれる場として、人間関係を重んじた場のデザイン、「監視」ではなく「見守り」をしてあげることが重要である。また、若者の参画意義と展望として、大人とともに、小さな共生社会をつくる、他世代との共生、「さんま」（仲間、時間、空間）を作っていくべきということだった。続いて、国立市公民館の井口氏から事例報告があった。

委員：第3回研修会の議事録（案）を作成したので、ご確認いただきたい。また、東京都公民館連絡協議会定期総会が、4月15日に行われる。生涯学習センター運営協議会委員から2名の出席が求められている。

事務局：2名の委員については、後日調整させていただく。

##### (4) 2015年度生涯学習センター運営協議会の日程（案）について

事務局：2015年度の運営協議会の日程の素案を提示させていただいた。月曜日、金曜日を中心に行いたい。日程は12回分確保するが、予算の減額があった場合は12回未満になる可能性もある。正式な日程については、議会終了後に改めてお示しする。

#### <その他>

なし。